

巻 頭 言

私事になりますが、東北数学教育学会に入会し早いもので5年が過ぎました。現在は事務局の仕事にも携わらせていただいております。まだまだ不慣れな部分もあり、会員の皆様には多々ご迷惑をお掛けしてるかと存じますが、今後とも、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、事務局員として、日ごろ感じることを少し述べさせていただきます。いちばん気になるのは、本学会の会員数に関わることです。このことについては、第35回年会の際、湊三郎会長(秋田大学名誉教授)が触れられております。言うまでもなく本学会は、数学教育に関心のある者に対して、広く開かれております。大学の教員に限らず、小・中・高の教員、教師を目指している学生なども入会可能です。

実際のところ、各年に実施されている初夏研究会や年会において、東北地区の大学院生や大学生が果敢に数多く発表しております。所属大学以外の先生方から、直接に懇切丁寧な指導や助言をいただけることは素晴らしいことです。湊先生はじめ、前会長の佐伯先生(岩手大学名誉教授)、板垣先生(宮城教育大学名誉教授)、尾崎先生(八戸工業大学)、杜威先生(秋田大学)、栗原先生(福島大学)、森川先生(山形大学)等々、常連の先生方からの深みのあるコメントは、学生にとって貴重な財産となっていると確信しています。

願わくば、学生さんらが研究会や年会での発表に留まらず、本学に入会し更なる研究や実践を進めていただければ有り難いです。また、会員の皆様には、何かの折に触れて、本学への入会を呼びかけていただければ幸いです。会員数が増えることにより、様々な企画や運営が可能になり、より魅力的な学会になると考えます。

財政面に関連して言えば、もう少し会員収入が増えれば、現在の年報をよりきちんと印刷製本できると考えております。現在は予算の関係からすべての工程を外部発注できず、印刷等の部分を事務局でおこなっている状況です。また、「重要なのは形より内容である」とお叱りを頂戴するかもしれませんが、投稿論文の様式(行数や文字の大きさ等)を、もう少し統一し、体裁を整えた方が良いのかもしれませんが。支出の面で言えば、郵送費や通信費をより安くできればと考えております。会員の皆様のご都合も踏まえつつ、インターネットなどを利用した往来も模索しております。費用のあまりかかない仕方インターネット上にホームページを立ち上げ、会員の皆様をはじめ広く一般の方々に、本学会の活動ぶりをアピールする方法もあろうかと思います。

以上、事務局にかかわる私見を思いつくままに書き出してみました。遠慮なくご鞭撻いただければ幸いです。

大澤弘典(東北数学教育学会事務局・山形大学)